

“高き志”をもったグローバルな「トップエリート」を育てる教育を実践

西武学園文理小学校

21世紀も早や16年が過ぎ、グローバル化の波はいよいよ教育界にも押し寄せてきました。2011年4月から実施された「新学習指導要領」でも「外国語活動」の導入が注目を集めました。こうした流れに先立って、「英語のシャワーで世界のトップエリート」をキャッチフレーズに、開学以来、先端的な教育を展開しているのが西武学園文理小学校です。しかし、同校の特徴は英語教育にとどまるものではありません。全教科にわたってバランスの取れた教育を実践していることはもちろん、「五感を通じた環境の中で言葉や数字、正しい礼儀作法に触れさせる」ことにより、確かな学力と創造性、プレゼンテーション力を養うとともに、真の日本文化を理解するための優れた教育も行っているのです。「世界のトップエリート」の育成を目指す、西武学園文理小学校の「魅力」をご紹介します。

国際競争が激化し、本格的なグローバル時代を迎えた今日、次世代を担う子どもたちが将来、あらゆるシーンで世界の人々と対等に伍していくには、深い思考力と的確な判断力、そして相手を説得できる表現力を養うことが不可欠です。

2009年に経済協力開発機構（OECD）が実施した国際学習到達度調査（PISA）の中で、日本は「数学のリテラシー」が65か国・地域中9位、「読解力」が同8位、「科学リテラシー」は同5位にランクされました。一時の低迷期を脱したとはいえ、依然として厳しい結果であることに変わりはありません。

こうした状況を鑑み、文部科学省では2011年度から小学校で完全実施される新学習指導要領において、5・6年生対象の「外国語活動」を含め、「PISA型学力」を育成するカリキュラムを本格的に始動させました。

しかしながら、日本の教育の問題点にいち早く気づき、すでに11年も前から先端的な教育を独自の建学

理念のもと、力強く実施してきた小学校があります。それが、「英語のシャワーで世界のトップエリート」をキャッチフレーズに、2004年4月に開校した西武学園文理小学校です。

小・中・高12年一貫教育による洗練されたカリキュラムデザイン

西武学園文理小学校が展開する「トップエリート教育」のねらいは、グローバル社会の中でリーダーシップを発揮できる“真のエリート”レディー&ジェントルマンを、小・中・高の12年一貫教育の中で育成することにあります。

小・中・高一貫教育の最大のメリットは、各学校の連携による効率的な学習の流れを作ることにあります。特に、小学校から中学校への接続では、教科の名称が変わり難易度が高くなる、専科制になって子どもたちと教員の関係が変わるなど、子どもたちの負担が

とても大きくなっています。西武学園文理小中高では、12年間の成長に合わせた学習効果の高いカリキュラムデザインを構築しています。

例えば、同校の掲げる特色の一つである「英語教育」について見てみましょう。

ベースとなる英語の授業に加え、「文理式イメージング授業」という、音楽や図工・体育の教科をできる限り英語で実施する独自のカリキュラムにより、子どもたちの英語力は無理なく高められています。それは、同校には小学校在学中に英検3級以上を全員が取得、準2級、さらには2級までも取得している児童が低学年にも数多くいることからもうなずけます。

しかし、同校の国際教育の最終的な目標は、単なる「語学力の向上」にあるわけではありません。グローバル社会を早期から意識した、真の「コミュニケーション力の養成」にあるのです。

例えば、児童に英語でのコミュニケーション力向上

と異文化を体験させる「海外研修」では、5年時にイギリス短期留学、6年時にはアメリカ研修と、2年続けての海外研修を実施。ここでは英語でのプレゼンテーションを通して現地の学校と交流するなど、小学生の域をはるかに越えた活動をしています。アメリカ研修では、ハーバード大学やMITの教授からレクチャーを受けるなどBUNRIの海外研修ならではの体験機会を与えています。

プレゼンテーション力を育成 国際舞台での活躍をめざす

「PISA型学力」が世界標準となった今日において、知識をいかに多く身につけるかが重要とされる時代は終わりました。大切なのは課題を発見し、問題解決のための知識を選択する力と、その知識を活用し、自らの頭脳で考え、行動に移す力です。

同校ではまず低学年において、学ぶことの「楽しさ」



創業者／理事長
佐藤 英樹

平成16年4月に開校して以来、「英語のシャワーで世界のトップエリート」教育を続け、世界に向かって着実に歩んでまいりました。

西武学園文理小学校は「すべてに誠をつくし、最後までやり抜く強い意志を養う」教育方針のもと、「心を育てる」「知性を育てる」「国際性を育てる」ことを重点目標として教育実践を行っています。

人としての豊かな心、先人の知恵に学び創造する知性、日本人としてのアイデンティティをもって国際社会で活躍する力、これらすべてを身に付けて未来をリードすることができる人材＝世界のトップエリートの育成を目指しているのです。

子どもたちが将来、自分の能力を活かす場を世界に求め、グローバルに活躍できる力を身につけられるよう、学ぶ力を習慣化し、常に自らを進化させる意欲をもつよう指導し、保護者の期待や社会的要請に応えていくのが、西武学園文理小学校です。



小学校 校長
伊藤 邦義

西武学園文理小学校は西武学園文理中学校・高等学校とともに、12年一貫教育で21世紀を担う「世界のトップエリート」を育成することを教育の目標としています。そのため、イートン校をはじめとする英国のパブリックスクールを模範として、真のエリートに相応しい品性と豊かな知性・教養、自由と規律の精神を培うことを教育の理念としています。

具体的な3つの教育の柱を「心を育てる」・「知性を育てる」・「国際性を育てる」に設定し、日々の教育活動の中で実践しています。具体的には知識の活用力・思考力・判断力・表現力の養成、国際理解教育、英語教育に力を注いでいます。特に「世界のトップエリート」として活躍するためには「日本人としてのアイデンティティ」を身につけることが大切と考え、日本の伝統文化に親しむプログラムを数多く実践しています。さらに、異文化を積極的に理解しようとする姿勢を育むため、学内にいる多くの外国人英語講師との交流の場を数多く設けています。

英語の学習は、英語の授業のほか音楽、図工、体育の授業でも英語を導入し、1年生では1週間に10時間の授業で英語に触れる環境を用意しています。また、5年生ではイギリス短期留学、6年生ではアメリカ研修を全員参加で実施し、児童は確実に「世界のトップエリート」への道を歩んでいます。皆様のお子様文理小学校にご入学されることを心よりお待ちしております。



5年生イギリス短期留学～バッキンガム宮殿にて（上）
/ 世界各国のお友達と一緒に英語の勉強（下）

を体感させるために田植え、稲刈りや工場、商店街見学などの体験学習を多く取り入れています。そして、体験したことについては必ず記録にまとめたり、感じたことを書かせたりして、体系的な知識になるよう指導しています。また、本物の教育を目指しさまざまな分野のプロをお招きしてお話し等いただく特別講義も実施しています。

教室ではコンピューター、プロジェクター、電子黒板を使用した独自の教材による授業も実施し、100%理解を目指しています。英語、情報の授業は1年生から6年生まで継続し、大きな成果を挙げています。

さらに、例えば算数では3年生から単元別に得意・不得意を考慮してクラスを編成した授業を実施するなど、全教科にわたって児童のモチベーションの向上に細心の注意を払っています。

高学年になると、各教科の専科教員による授業を多く配し、中学校への接続に配慮した、より高度な学習の段階に入ります。そして、自ら考え表現する力を養成するため、5・6年の2年間にわたって自ら設定した課題を研究する「卒業研究」を完成させます。「卒業研究」では①課題の設定②調べる③考える④まとめる⑤発表する、という過程を2年間かけて進め、グローバル時代で最も必要とされる「思考力」「プレゼンテーション力」を養っていきま



6年生アメリカ研修
ハーバード大学にて（上）/ 現地校のお友達に日本文化を英語でレクチャー（右）



す。言い換えるなら、ここで展開されているのは「世界標準」のまったく新しい教育なのです。

小中高一貫で進む国際教育 世界のトップエリート教育

国際社会でリーダーシップを発揮できる人材となるためには、まず日本人としてのアイデンティティを確立させる必要があります。そのために、西武学園文理小学校では日本の伝統的な文化を正しく理解させることを重視し、礼儀・作法、マナーのほか、日本人として本来身につけるべきことの教育を実践しています。さらに、両親、祖父母、家族への感謝を育み、縦割り活動を重視し、思いやりの心を育てています。また、他国の児童・生徒との交流を通じて、諸外国の文化理解と国際社会に対する広い視野を持つよう指導しています。

冒頭でも述べたように、西武学園文理小学校では小中高12年一貫教育を目指しており、小学校卒業後は一定の基準を満たしていれば西武学園文理中学校に進学します。中学では1年生から超難関国立大学・医学部への現役合格を目指す「特別選抜クラス」をはじめとした学力別クラス編成を整備。学力差がつきやすい英語や数学の授業は2クラス3分割という少人数で行うなど、きめ細かな指導により、将来の目標に合わせた「確かな実力」を養っています。

“とことん”学び、楽しみ、学園生活を満喫する「文理流」教育。この学舎（まなびや）から、次代を担う世界のトップエリートが続々と輩出されることが大いに期待されます。